Ⅲ. 水害

◆水害について

郡山市を南北に流れる阿武隈川は、大正から昭和の初めにかけて、大規模な河川改修工事が行われました。この改修が行われる前の阿武隈川は蛇行しており、洪水が多発していました。改修後にも昭和61年の8・5水害に代表されるような水害が起きていますが、改修以前はもっと多かったと思われます。西田町の町B遺跡では、縄文時代後期の洪水で運ばれてきた砂の層が見つかっています。

8・5水害被災状況

◆洪水で埋まったムラ ～会津坂下町中平遺跡～

会津坂下町にある中平遺跡は、阿賀川の自然堤防上に位置する遺跡です。土地改良工事に伴って、平成13年に調査が行われました。調査の結果、住居跡や鍛冶工房などが見つかり、6世紀代の集落跡であることがわかりました。この集落は、厚い砂の層に覆われており、阿賀川の氾濫による洪水で埋まったと考えられています。

町B遺跡の洪水層

中平遺跡14号竪穴建物跡（写真提供:会津坂下町教育委員会）

中平遺跡14号竪穴建物跡の堆積状況
（写真提供:会津坂下町教育委員会）

中平遺跡14号竪穴建物跡の遺物出土状況
（写真提供:会津坂下町教育委員会）

大安場史跡公園 平成29年度 第2回企画展「遺跡と災害」

会期：平成29年10月28日(土)～12月10日(日)
会場：大安場史跡公園ガイダンス施設
主催：郡山市／郡山市教育委員会／大安場史跡公園（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）
協力：福島県文化財センター白河館／福島県立博物館／富岡町教育委員会／会津坂下町教育委員会／白河市教育委員会／仙台市教育委員会／渋川市教育委員会／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団／岩手日報社（順不同、敬称略）

大安場史跡公園（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）
〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地　TEL.024(965)1088 FAX.024(965)1090
E-Mail oyasuba@bunka-manabi.or.jp　Web http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba

この紙はFSC®認証紙です。　紙へリサイクル可

大安場史跡公園
平成29年度 第2回企画展

遺跡と災害

遺跡に刻まれた災害の痕跡から
当時、何が起こったのかを読み解き、解説します。

大安場史跡公園
公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

遺跡の発掘調査を行っていると、過去に起きた災害の痕跡が見つかることがあります。

今回の企画展では、様々な災害の痕跡を紹介します。

I. 地震と津波

I-1 地震災害

◆地震について

日本は世界有数の地震大国です。地球上で起きる地震のうち、約10%は日本とその周辺で起きています。

日本にこれほど地震が多い理由としては、複数の地殻プレートがぶつかり合っていることが挙げられます。地球表面の地殻は10数枚のプレートにわかれており、それらはぶつかり合ったり沈みこんだりして常に大きな力を掛け合っています。日本列島とその周辺は、太平洋プレート、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートという4枚ものプレートがぶつかり合う、地球上でもかなり珍しい場所なのです。

古来、日本は大きな地震に何度も襲われてきました。古い歴史書などには、たくさんの震災記録が残されています。また、発掘調査を行っていても、地震の痕跡を目にすることがあります。

日本周辺のプレート

◆遺跡で見つかる地割れの痕跡 ～相馬市段ノ原B遺跡～

相馬市の段ノ原B遺跡は、今から約6,000年前の縄文時代前期を中心とした集落遺跡です。相馬中核工業団地の造成に伴い、昭和60年から平成3年にかけて発掘調査が行われました。

段ノ原B遺跡の地割れ痕跡
(写真提供:福島県文化財センター白河館)

調査の結果、竪穴住居跡102棟、土坑333基などが見つかり、縄文時代前期の集落の全容が明らかになる貴重な成果がありました。

そして、この段ノ原B遺跡の調査成果でもう一つ注目されたのが、地割れ痕跡です。長さ約92m、幅は2～6mほどの溝状の痕跡で、ほぼ一直線上に7つの溝状亀裂の集合体として確認されました。縄文時代前期に起きた大地震によって形成されたものと思われます。

地割れ痕跡内からは縄文土器片約4,600点、石器58点などが見つかりました。さらに、何かを燃やした痕跡も見つかっています。おそらく地震で被災した住居の部材などを燃やし、使用不可になった土器や石器などを投棄したものと思われます。

I-2 津波災害

◆津波について

海溝型の地震が発生した場合、津波が発生することがあります。地震により海底が隆起・沈降し、それによって引き起こされた海面変動が波となって沿岸に押し寄せるのです。

古来より、日本は多くの津波災害に襲われてきました。平成23年の東日本大震災でも、多くの人の命が津波によって奪われています。古い記録にも津波災害の記録がたくさん残されています。また、遺跡の発掘調査においても、津波による堆積物と思われる砂に覆われた遺跡が見つかることがあります。

東日本大震災で宮古市を襲う津波(写真提供:岩手日報社)

◆遺跡で見つかる津波の痕跡 ～仙台市沓形遺跡～

仙台市沓形遺跡の津波堆積物(写真提供:仙台市教育委員会)

巨大地震に伴う津波は、沿岸部を襲うだけでなく、内陸部にまで浸水します。東日本大震災では、沿岸から内陸部3kmまで浸水した地点もあります。貞観11年(869)に起きた貞観地震に伴う津波は、多賀城にまで押し寄せ、周辺を水浸しにしたことが記録に残っています。

上の写真にある仙台市沓形遺跡では、弥生時代の水田跡が見つかりました。その水田は白い砂の層に覆われていました。これも津波によるものと思われます。

II. 火山

東北地方の活火山

◆火山について

日本には全部で111の活火山があります。そのうち、東北地方に存在するのは18、福島県には5つの活火山があります。活火山は噴火の頻度などによってランク分けされており、噴火頻度の高い火山は常時観測火山となっています。福島県では、吾妻山、安達太良山、磐梯山の3つが常時観測火山となっています。

榛名山

◆榛名山の噴火

榛名山は群馬県にある活火山です。6世紀代に少なくとも2度の大きな噴火を起こし、どちらの噴火でも大きな被害を出したことが分かっています。

最初の噴火は6世紀の初めころだったと思われ、麓にあった村は火砕流に襲われました。金井東裏遺跡にあった村は6世紀初めの噴火で火砕流に襲われ、火山灰に覆われました。その噴火で被害にあった人物が「甲を着た古墳人」で、平成24年の発掘調査で発見されました。

2度目の噴火は6世紀半ばごろだったと思われます。この時の噴火では、「日本のポンペイ」として有名になった黒井峯遺跡が火山噴出物に覆われました。そして、この時の火山噴出物は偏西風に乗って福島県にまで達し、農作物などに被害を出したものと思われます。この噴火による火山灰は、安積町東丸山遺跡(現・カルチャーパーク)などで確認されています。

金井東裏遺跡の「甲を着た古墳人」
(写真提供:公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)

「甲を着た古墳人」の冑
(写真提供:公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)